

工場の積み荷 落下防げ

棚に収納時 自動で柵



「ウエイト東海」開発

①ウエイト東海が開発した「S・G・B」を説明する片山和洋社長。

②重さが50キロほどの荷物が底板の上に載ると、柵の上部にある網目状の柵が手前にせり出し、下りてくる

電気がなくても「てこの原理」で上下する落下防止用の柵が付いた収納棚を、愛知県

半田市の建設業「ウエイト東海」が開発した。昨年四月の熊本地震の被害にヒントを得て考案。落下による事故や被害を防ぐ、工場や倉庫の震災対策に結び付けたい考案だ。

収納棚「Safety Gate Box (S・G・B)」は鋼鉄製で、高さ二百八十キロ。大きさは高さ二・二メートル、幅一・六メートル、奥行き一・四

五メートル。重さ五十キロほどの積み荷を棚に載せると、ゆるい勾配のある底板が沈み、手前の方に柵が下りてくる仕組み。積み荷の上げ下ろしにはフォークリフトを使うことを想定している。柵の下にある隙間から差し入れたフォークリフトの腕で積み荷を持ち上げると、柵も同時に上がる。

熊本地震で、現地の自動車部品製造工場の積み荷が柵から落下、散乱する画像を見たウエイト東海の片山和洋社長

(四社)が昨年十月ごろ開発を始め、今年八月末に完成した。すでに大手企業の工場に納入した実績があり、今後は一台五十万円前後で販売する予定。

片山社長は「電源が不要で、停電時でも柵が上下するのが強み。巨大地震への安全対策に役立てたい」と全国展開に意欲をみせている。問い合わせは同社〓電0569

(32) 2530へ。

(半田支局・三宅千智)